

会 議 録

会 議 名	令和6年度 野田市自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第1回専門部会（医療的ケア児者支援部会）
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	議題 1 部会長及び副部会長の選出について（公開） 2 令和6年度医療的ケア児等コーディネーター連携会議について（公開） 3 その他（公開）
日 時	令和7年3月4日（火） 午後1時から午後2時15分まで
場 所	保健センター3階 第2会議室
出席委員氏名	並木 徹 上野 友和 小林 幸代 杉山 浩志 石井 千賀子 脇屋 春英 石垣 幸子 石山 紀子 小山田 瑞木 白石 直美 水沼 幸恵 渋谷 かずえ 岩澤 文
欠席委員氏名	新村 秀樹 嘉門 美希
事務局	榎本 由香里（障がい者支援課相談支援係係長） 橋本 奈々 （障がい者支援課相談支援係主任主事）
傍聴者	2人
議 事	令和6年度 自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第1回専門部会（医療的ケア児者支援部会）の会議結果（概要）は、次のとおりである。
事務局	令和7年3月4日午後1時00分開会。事務局から欠席委員が2名いることを報告した。また傍聴者が2人いることを報告し、入室を許可する。会議録作成のためICレコーダーを使用し、録音することの了承を得る。 【委嘱書の交付及び委員の紹介】 事務局から、委員選任の経緯について説明し、各委員の自己紹介を行う。 【議題1 部会長及び副部会長の選出について】 部会長について、立候補者がいなかったため事務局から

	新村委員を指名推薦し、了承を得る。 副部会長について、立候補者がいなかったため事務局から並木委員を指名推薦し、了承を得る。 <並木副部会長挨拶> 以降、並木副部会長が進行した。 【議題2 令和6年度医療的ケア児等コーディネーター連携会議について】 議題について、事務局から説明を求める。
並木副部会長	
事務局	令和6年度医療的ケア児等コーディネーター連携会議について報告し、他市町村での取り組みについて説明を行う。
並木副部会長	私も事務局と一緒に連携会議に出席した。会議に出席していた近隣市からも現状を聞いたが、小児科医の不足や市の中心に障害福祉サービス事業所が集まってしまうことで、郊外の利用者が通所サービス等を利用したくても、送迎の問題から利用ができないなどの課題も見受けられた。 また本部会のような協議の場をこれから立ち上げる自治体もあった。そういった自治体は、医療的ケア児者に対してどのような取り組みをしたら良いかというところがスタートであった。本部会でも以前医療的ケア児者に関するアンケート調査を訪問看護や相談支援事業所に協力をいただき実施したが、なかなか医療的ケアに関する実質的な数値や回答を得ることができなかった。それは他市でも同じような状況になっており、医療的ケア児者に関する情報の集約の難しさがあるようである。 そこでまずは医療的ケア児者に関する知識や現状について把握するために、来年度の本部会において、今回の連携会議を主催した「千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりす」を講師とお招きし、研修会を開催してはどうかと思っているが、委員の皆様の意見はどうか。 <委員一同、了承。>
並木副部会長	事務局はどうか。

事務局	今回の部会にて研修会の開催の提案があったことを、部会長に報告し、部会長の了承を得られたのち、来年度以降に研修会の開催ができるように動きたい。
並木副部会長	よろしく願いたい。研修会の実施という部分でもう一つ提案したい。 私は子ども部会でも副部会長をしているが、先日の子ども部会の中でライフサポートファイルが議題となった。ライフサポートファイルは障がい児や支援を必要とする児童を持つ保護者が子どものライフステージに合わせて作成していくもので、特に就園や就学時など子どもにとって大きな変化があった時に役立つことが多い。連携会議の中でも就園や就学について触れていたため、ライフサポートファイルは医療的ケア児にも活用できるのではないかと思った。 そこで来年度にはライフサポートファイルについての研修会のような会を本部会と子ども部会、相談支援部会の 3 部会合同で開催することができればと思っているが、いかがか。 <委員一同、了承>
並木副部会長	話が戻るが、「ぼらりす」を講師として招く会も、子ども部会と相談支援部会と 3 部会合同での開催も良いのではと思っているがどうか。
事務局	新村部会長や各部会の担当にも相談し、合同開催できるか検討する。
並木副部会長	【議題 3 その他について】 せっかくの機会なので、委員の皆様と情報共有をしたい。杉山委員に柏市の取り組みを教えてほしい。
杉山委員	柏市では、全国的に医療的ケア児者についての協議の場が設置される前から、医療的ケア児について考える会のようなものがあった。最初は少人数の相談員で集まるという形からスタートしたが、情報の少なさから、各相談員の担当地区の施設を見学したり、代表者から話を聞いたりして、市内にどんな社会資源があるのか確認した。現在は各相談員が抱えている困難ケースなどを、皆でどのように解決するかを考えることもしている。 柏市の障害福祉課の職員が会議内で出た意見に対して、

並木副部会長	次の会議までに具体的な提案をしてくれている。最近は医療的ケアが必要な児童の幼稚園に関する課題について話し合った。 大変参考になった。他に何かあるか。
水沼委員	以前吸引が必要な医療的ケア児のケースがあった。当初は市内に吸引ができるヘルパーがいなくて苦慮した。現在は市内で吸引ができるヘルパー事業所を見つけ、対応できているが、柏市など他市に比べるとやはり吸引ができるヘルパーがいる事業所が少ないと思われる。 野田市の介護事業者協議会の訪問看護部としてヘルパーを対象に研修会を実施した。研修会の中で出た意見としては、吸引に関する資格を取得するにあたり費用面が壁となっている様子であった。 また取得するために千葉市まで行く必要があったりと、事業所としてヘルパーに資格取得をさせたくても、人員、費用、時間などの面において課題がある状況である。他市では喀痰吸引研修に対する助成があるようだが、野田市ではどうか。
事務局	今年度に喀痰吸引研修を実施しようと試みていたが、実際に研修機関となる医療機関との協議の中で、医療機関の都合上、実施に至ることができなかった。市としても吸引ができるヘルパーの増加は重要なことと考えている。 来年度以降、喀痰吸引研修について助成の仕方についても含めて、実施できるように検討していく。
水沼委員	是非実施できるように取り組んでほしい。
脇屋委員	今年1月に障がい児のみ対象の単独型の短期入所施設を開設した。2階建てで10床の施設である。看護師を夜間も常駐させることが難しく、医療的ケア児の受入予定はない。 ただ現在、医療的ケアが必要な障がい児の受入の相談があり、保護者と協議して、看護師の対応も可能となる目途が立ったので、利用の受入れをすることを検討している。
石山委員	保育園や幼稚園、小学校にどのような医療的ケアが必要な児童がいるのかを教えてほしい。

小山田委員	小中学校だと導尿が必要な児童がおり、看護師を二人体制で配置している。その他の医療的ケアとしては血糖管理やインスリンの管理が必要な場合が一番多く、痰吸引が必要な児童が1人いる。
並木副部長	保育園や幼稚園はどうか。
岩澤委員	現時点で認可保育所での医療的ケア児の受入れはない。令和3年頃に医療的ケア児の入所相談があったようだが、児童の状況が変化したということで、申請まで至らなかった。
石山委員	障がい者や医療的ケアが必要な障がい児者を対象とした災害関係の避難行動計画などを策定、実施していく予定はあるか。 またライフサポートファイルにも災害関係のことは盛り込まれているのか。
事務局	防災関係の個別避難計画や障がい者を対象にした避難計画については、防災関係課と障がい者支援課で協議しながら、今後進めていく予定である。 またライフサポートファイルの中には現時点では防災や避難関係について盛り込まれていない。ただライフサポートファイルを準備しておくことで、いざ避難することとなった時に避難先でライフサポートファイルを活用して、それぞれの障がい児者に対して対応を検討することができると思われる。
並木副部長	災害関係の話だが、ふだんの生活と全く違う環境になる避難先で、些細な変化が苦手な障がい児者や潤沢な医療用品がなくなっていると想定される中で医療的ケアが必要な障がい児者に対して、どんな対応が必要となるのか、どこまで対応できるのか、そういったことも今後検討する必要があると感じた。
事務局	今回の部会について事務局から部会長に報告する。 また今回の部会で出た意見や情報を来年度の部会に生かしていきたい。
並木副部長	そのほかに意見や質問がないため、以上で本専門部会を

	終了する。 午後２時１５分閉会 以上
--	---